

鯉淵同窓会兵庫県支部だより(第17号)

鯉淵ひょうごの集い開く



神鍋高原ブルーリッジホテル前にて

「鯉淵ひょうごの集い」を7月2日、豊岡市日高町の神鍋高原にあるブルーリッジホテルで開催しました。参加者は15名で、但馬地区の同窓生が大半を占めました。久しぶりの再会に大いに盛り上がりました。

隔年開催の支部総会では、物故者への黙祷から始まり、まず第1号議案の令和3年度、4年度活動報告と収支決算の承認並びに会計監事の監査報告があり、次に第2号議案の令和5年度、6年度活動計画と収支予算の設定についての提案がありました。最後に第3号議案の令和5年度、6年度支部役員改選提案がありました。出席者全員の賛成と欠席者35名からの議案一任により、全ての議案が可決成立いたしました。

このように定期的(隔年)に県内同窓生が集う会合を開いているのは、全国の支部では極めて少なく、しかも支部だよりを継続して発刊しているのは、本県支部だけであると同窓会本部から高く評価されています。2年後には、県内で「鯉淵ひょうご

の集い」を開催いたしますが、その時には多くの同窓生の皆様にご参加いただくような企画にしたいと思います。

なお、新しい支部役員には、次の皆さんが選出されました。よろしくお願いいたします。

顧問	高木経吉	(22期)	新任
会長	福井寛行	(26期)	再任
副会長	岡本多恵子	(31期)	新任
会計監事	長尾輝夫	(24期)	再任
事務局長	芦田靖司	(44期)	再任

支部総会の終了後には、ホテル内の日本料理店「華巖」にて、昼食を食べながら、参加者がそれぞれ近況報告をいたしました。亡くなった同窓生のこと、学生時代の思い出、趣味のこと、暮らしや健康のこと、農業のことなど、会場のタイムアウトまで笑い声が絶えない楽しいひとときを過ごしました。最後は、ホテルの前で記念の集合写真を撮り、再会を約束して解散いたしました。

同窓生の追悼文

最近、他界される先輩・同窓生が多く、お世話になった感謝の意味を込めて、支部だよりに生前の思い出を掲載することになっています。

毎回の企画であり、今回は、同窓生からお寄せいただいた故武久正篤さん(28期生)の追悼文を掲載いたしました。

また、故鞍田三穂(13期生)さんの奥様から「亡き夫を思いて」と寄稿いただきましたので、あわせて掲載いたしました。

武久さんを偲んで

岩本 佐知子 (20期生)

武久さんとの出会いは、加西市に単身赴任して、同じ事務所で仕事をするようになってからです。

但馬以外で勤務したことのない私は、出張のたびに行き先の地図を書いてもらいました。

また、人と人との絆を深めるコミュニケーション力は素晴らしかったです。それにより淡路と但馬の交流が生まれました。そのおかげで加西市での4年間を楽しく過ごさせていただきました。

その後も、武久さんの世話で年1回、明石で会っていました。コロナが落ち着き、再会したいと話合っていました。その矢先の知らせで、本当に落胆しました。とても寂しくなります。

本当にお世話になりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

『万緑に骨壺ひとつ友の逝く』



在りし日の武久さん

武久さん、早すぎるよ

福井 寛行 (26期生)

突然の訃報を耳にしたのは、「鯉淵ひょうごの集い」開催の1ヶ月前だったと記憶しています。

集いの内容を電話で打合せをするために、ご自宅に電話をしたときに、奥様から訃報を聞きました。一瞬、言葉を失い何事が起こったのかと、ひどく動揺したことを覚えています。

本県の同窓会支部の副会長に依頼した

のは、10年ぐらい前で、「僕でよかったら、会長のお手伝いをします」と気軽に引き受けて頂きました。その後、ひょうごの集いを開催するたびに忙しくても必ず出席し、司会や会費集金など事務的なことを嫌な顔をせず、上手に行っていた頂きました。本当に気配りの優れた尊敬できる方でありました。

特に思い出すのは、第12号支部だより発行の取材で武久さん宅を訪問し、学生時代から県の職員時代、退職後のこと、趣味のこと、学園に対する要請、本県同窓会のことなど数多くのことを熱心に話していただいたことでした。取材も3時間を超え、非常に有意義な時間を過ごしたことを今でも記憶しています。こんなにも熱く話していただいた同窓生は、これまでおられなかったように思います。

武久さん！ 貴方のような方がこのように早く逝ってしまうとは、本当に残念です。心からご冥福をお祈りします。

亡き夫を思いて

紫陽花の花があざやかに咲いている今日この頃、皆さまお元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

主人は色々な病気と付き合いながら、弱音を吐かず、何事にも挑戦する人でした。主人の弟さんより腎臓を提供していただき、2回目の腎臓移植を亡・万波誠先生にさせていただきました。

その結果、とても元気になり、生まれ変わったようだと喜んで生活していました。しかし、心筋梗塞という病魔に襲われ、令和4年1月12日、天国へと旅立ちました。84歳でした。

平成22年より14年間ほど、四国の宇和島徳州会病院に3か月一度通院していました。旅行好きだったので温泉めぐりをしたり、また石鎚山にも登りました。

何か変わったことがあるときは、四国まで大変なので、岡山県備前市の吉永病

院に1時間ほどかけて通院をすることもありました。万波先生も、令和4年10月14日、吉永病院にて心筋梗塞で亡くなられ何か運命を感じました。

平成29年8月に岡山県の日生で、3人の息子の家族に囲まれて、主人の傘寿の祝いを開きました。その時には、次のような人生目標をたてていました。

「人生は長寿社会だ 白寿祝まであと20年 ゆったり ゆっくり」

皆さまには、大変お世話になり本当にありがとうございました。末筆ながら、皆さまのますますのご健康をお祈り申し上げます。

鞍田三穂（13期生）の妻 さつき

句集「ひまわり」の 発刊に寄せて



大字 路子（23期生）

長年、仕事一筋に生きてきました私は趣味でお茶を続けてきました。その時、出逢った女性講師が「お茶をする人は俳句を学びなさい。きっと世界が広がりますよ・・・」と言われ、いつかチャンスがあれば俳句を・・・と思い描いていました。

そこで退職後、地元の俳句クラブへ飛び込みました。季語も切れ字も句会のルールも知らない私は、何年たっても上達

しないもどかしさを感じつつ続けて参りますと、日本の言葉、季語の世界の奥深さに出会い、少しずつ俳句の楽しさを感じるようになりました。

また、四季折々のその姿を変え、美しく変化する但馬の自然、茶道の世界を楽しみつつ、旬の野菜や果物、その命をいただく幸せや、喜びを句として参りました。つたない作品ですが、私の生きた証になればと思い、この度、句集としてまとめることにいたしました。

句集を発刊いたしますと、多くの方々から沢山の声を寄せていただき、私自身多くのことを学ばせていただきました。中でも強く感じましたことは、①俳句はその人の生き方、暮らし方をそのまま写し出すものである。②俳句はその人の人生や生き方を文字にした自分史である。③俳句は、一時一時の私をとどめてくれており、その時の心情がいろいろと甦ってきます。④俳句はありのままの姿、思いを解りやすく歌うこと。⑤俳句を始めると日本語の豊かさ、美しさに驚きます。⑥俳句のある暮らしは、見る物、聞く物すべてが新鮮でおもしろく、発見と感動の日々となります。

このような俳句に出会えたことに感謝し、私の人生に彩りを添えるものとして、これからも長く続けていきたいと思えます。



句集「ひまわり」の中から、それぞれ2句選びました。

- 祝い膳
 - ・皆揃い家伝の漆器で祝い膳
 - ・初釜や絹ずれの音さやかなり
- つくし
 - ・よもぎ摘む命の鼓動聴こえ来る
 - ・熱き茶とよもぎ餅でのミセス会
- ひまわり
 - ・ひまわりの千のゆるるは応援歌
 - ・夏めくや茶筌通しの指軽く

- 名月
 - ・刈り終えて夫と家路の良夜かな
 - ・新米を炊く喜びの水加減
- 囲炉裏
 - ・カニすきや熱燗すすむ囲炉裏端
 - ・変わりなき日々の幸せ藪柑子
- 学生時代
 - ・生涯の友との出会い学生寮
 - ・新しき時代を拓く卒園生

近況報告

「鯉淵ひょうごの集い」(7月2日)の開催案内を同窓生各位にお送りしたときに、同窓生の近況報告を依頼しました。参加(不参加)報告の返信とともに、記載された近況の報告を次のとおり掲載いたします。また、同窓生が病気の治療のため、代わってご家族から送られてきたものも掲載しています。



小島 好文 (11期生)

いつも同窓会活動にお世話になっており、感謝しております。ありがとうございます。不参加ですが、皆様によろしくとお伝えください。

普光江 文江 (12期生)

5月に満87歳となり、さすがに、外出がおっくうになりました。皆様とお会いしたいのは、やまやまですが、そんな訳でお許し下さい。皆様の御健康と御盛会をお祈り致しております。

近本 恭洌 (15期生)

ご案内頂きありがとうございます。夫は、今春から町内のデイサービスへ通っています。歩行がなかなか良くならず

室内・屋外ともに歩行器に頼って過ごしています。諸事情から欠席させて頂きますことをお許しください。

近本恭洌 内 千代乃

中嶋 則子 (15期生)

いつもお世話になっています。1月に主人が他界し、さみしい日々を過ごしています。私も足の骨を折り、杖の生活となりました。でも多くの仲間に支えられ家族と楽しい生活をしています。皆様によろしくお伝え下さい。近くに来られましたらお訪ね下さい。

富垣 淳生 (16期生)

最近では体の調子が悪く困っています。(本年4月に、胃ガンの手術を受けました)

長峰 年正 (19期生)

小生は19期卒で、全販連に就職したが、すぐに家業につき、その後、地元農協に就職しました。農協定年前に就業事故により、体調が全快せず、以後浪々と生活をしていました。顧みると、何か不十分な事があったようです。自分の夢を追っかけ回しているようで、自分が納得のいく人生ではなかったと思う今日この頃です。

小生の近況は、労老者となり、良き友人と出会い、今は車で古寺、神宮を廻り歴史の一端を思い学ぶ日々を送っています。農協に就職していた頃は、米価高騰の時代でありました。小生は営農指導員として、米の増産に取り組み、感謝と喜びを感じた時代であったが、経済成長の時、自己陶醉にあらずに第二資本主義に突入して行っていました。その頃の農協は、経営対策とその対応に明け暮れ、自己を殺す事になりました。晩年は、自己を立てることとなり、流れに添う事を良しとしています。

今、同窓の方々の生き方を知りたく、また同胞の意見を聞きたく、同窓会に出

席しました。先般も19期生秋田大会に出席し、人生のまとめとしては、如何なものかと話し合う事の楽しい会でありました。

さて、小生は現在無職であります。米を60aと畑10a余りを近隣の方々と楽しくやっています。年金と少しばかりの不動産の経営をやっています。近隣に来られたらご一報ください。小生、体調良ければ同席も可能なので、お待ちしております。最近、眠病が出て、物が見づらいし、文字を書く時も苦痛となり、同窓会事務局からの要望を聞くと何かわびしい自分になります。以上で、小生の近況を報告いたしますので、よろしく願いいたします。

出店 利彦 (19期生)

足と腰が弱っており参加は困難です。開催地が神戸の場合は、参加可能かも知れません。

岩本 佐知子 (20期生)

「野菜を食卓に」

私は、家族7人で暮らしています。自家用の米と野菜を栽培しています。野菜は少量多品目で、タキイの友の会にも入り、新しい野菜や花づくりを楽しんでいます。いろいろ試した結果、自分なりの栽培計画を作り、今ではそれにそって野菜づくりをしています。

また、大豆を約50本作り、自家用味噌に加工しています。週に2日、家族の夕食づくりをしていますので、野菜を多く使った料理に心がけています。

しかし、今年からは、趣味やグループへの参加を考えて、畑の面積を半分にしました。今後は無理をせず、体力を考えた菜園づくりをしたいと思っています。



甲谷 克己 (21期生)

80歳で定年退職、現在は無職。ごほうびに今はレッスン、卓球、家庭菜園、「愛宕大学」と余生を楽しんでいます。今は友人とモーニングコーヒーを楽しんでいます。時にはローカルニュースも飛び込んで来ます。鯉淵も遠くなりましたが、持つべきものは友人です。

高木 経吉 (22期生)

営農組合を組織して15年。村役は卒業しています。



田中 義治 (23期生)

思い出を宝物にして、今に“感謝、感謝”。

元気を保つ努力をして楽しんでいます。

田中 久隆 (23期生)

中谷の農事組合法人で嘱託として年6ヶ月働いています。元気で楽しく過ごしています。

大字 路子 (23期生)

「自宅を開放したクッキング教室」

退職を目前にした平成18年、有志の方に働きかけてプロの料理技術を学ぶクッキング教室をスタートさせました。目から鱗のプロの技術はとても参考になりメンバー、場所が変わりながら続けてきました。

令和2年、先生が高齢のため、教室は閉鎖されました。先生がおられなくても自分たちで学び合おう・・・と我が家を開放し、月1回クッキング教室を続けることにしました。当番制にして、先生に教わった料理で良かったもの、自分が作

って良かったもの、教えてほしい料理などを紹介し合い一緒に作ります。身近な料理の紹介でとても参考になり、月々の教室を楽しみにしています。



井口 成子 (23 期生)

特に病気もせず、好きな事をして過ごしています。過疎の地域では、いつまでも若者でちょっと大変ですが、元気でいられますよ。7月2日は、あいにく高校時代のクラス会があり、出席の予定をしています。

長尾 輝夫 (24 期生)

最近、老化が進み、草木との闘いにも負けつつ、自然の恐ろしさを身近に感じられるようになりました。

農業も、従前とは変わらず米・黒大豆・栗など耕作を続けているが、私も主要な農業機械も後期高齢者となり、いずれかのダウンにより見切りを付けなければならない状況にあります。

このような中、秋には子供家族をはじめ、親戚・友人の皆さんが黒枝豆刈りを楽しみに待っているので、苦労豆づくりを止めるに止められず、猛暑にも負けず田んぼに出ています。



また、ふるさと帰りが遅かったので、自治会等の役回りがいつまでも終わらず認知症状？出つつも、苦労しながら努めております。

かかりつけの医者からは、「何事も緊張

感がなくなり、ホッとした時が一番危ない」と聞かされているが、限界集落の田舎生活では失業することなく、やらねばならない仕事が山積みになっています。これからも我が先祖が残した財産管理と地域の活動にできるだけ長く貢献できるよう努めていきたいと思っています。

吉川 千鶴子 (24 期生)

いつもお世話になりありがとうございます。

グラウンドゴルフ、月1回のコーヒースalon、漬物作り、御詠歌、昨年から多可町老人クラブの理事を受けていて、元気で何かと忙しい毎日を送っています。

3年前から息子の嫁が小さなパン屋をオープンしました。店の方は手伝っておりませんが、少しでも助けになればと思い家事を引き受けています。7月2日は主人の里の方で法事があり、欠席させて頂きます。

皆様よろしくお伝え下さい。



豊田 潔 (24 期生)

「鯉淵ひょうごの集い」の案内を頂きありがとうございました。主人は病気療養中のため残念ながら不参加とさせて頂きます。同窓生の方々の益々の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

豊田 潔 内

西浦 英子 (24 期生)

7月2日はトマトの収穫のため、欠席します。お陰様で、変わらず農の手伝いをしています。75歳、田植えの手伝い(苗箱だし)も何とかできました。ありがたいことです。どうぞ秋の実りを迎えられるように。皆様どうぞお元気で。

西田 博 (25 期生)

水稻、黒大豆中心に 3.5 ha 耕作していますが、年齢を感じる日々です。当日はブルーベリー収穫の最中です。



大林 幸子 (25 期生)

いつもお世話様です。支部だよりを楽しみにしています。1 週間に 2~3 日の調理補助の仕事に生きがいを感じながら、時には仲間と手芸をしたり、自彊術で体力維持を図っております。

谷口 耕一 (25 期生)

当日、地区行事のため、欠席いたします。よろしく願いいたします。

福井 寛行 (26 期生)

今年 3 月で 2 期 4 年務めた町内会代表 (区長) と西脇市あじさい協会会長など多くの役を退任し、やれやれと思った束の間、地域における役員のなり手不足から、新たに 4 月から民生・児童委員、西脇市シニアカレッジ自治会会長、NPO 法人田園空間博物館 (道の駅) の役員、地元神社の宮総代などの役を引き受けざるをえなくなりました。野菜栽培の傍ら相変わらず多忙な日々を送っています。この同窓会の灯火だけは消さぬように頑張りたいものです。

辻 伴子 (27 期生)

ひょうごの集いの 7 月 2 日 (日) は他に予定が出来て出席できませんが、皆様によりしくお伝えください。仕事もこれからは息子 (長男) 夫婦に任せ、老後のスローライフを楽しみたいと思いつつ、まだ働ける間は自分に見合う仕事はしていきたいなあ~、と複雑な胸中の今日こ

の頃です。

家業の仕事と自分の趣味、そして仲間とのボランティア活動に勤しんでいます。元気な間はきっと。



岡本 昭治、多恵子 (31 期生)

二人とも元気に活動しています。

橋本 篤 (31 期生)

昨年、脳梗塞を発症してから、仕事も手につかず、自宅で療養しています。持病もあり医者から無理をすると言われております。年金生活を始めています。

木村 毅司 (33 期生)

J A 退職後、市役所で人・農地プラン (本年度から地域計画) 担当として、お世話になっております。年も 66 歳になり、本年度退職予定。農業に専念したいと思っています。



北垣 裕之 (42 期生)

学園の同窓会本部会費の納付をやめました。

度重なる嫌がらせに、耐えきれず苦肉の策です。ハガキの宛名はまともですが、会報の会費納付名簿の名前が毎回違うのです。

それも 20 年間。何度も訂正を依頼しましたが、結局、直らずでした。

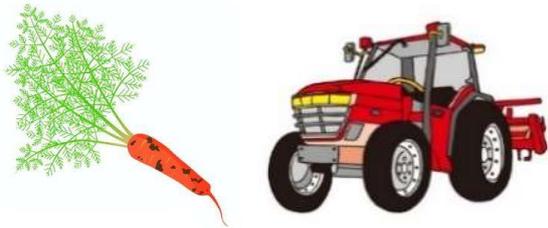
※北垣氏の心情を察し、兵庫県支部会長から、この件について学園同窓会本部に謝罪と訂正を申し入れていましたところ、北垣さん宛に電話でのお詫びと支部会長宛に文書で訂正とお詫びの通知がありました。

芦田 靖司 (44 期生)

令和4年度は、三木市協同学苑内にあります教育部に勤務しておりましたが、令和5年4月より本所農業会館の総務企画部に異動となりました。役員室を兼務しております。

高見 康彦 (44 期生)

有機農業の規模拡大を目指して頑張っています。



同窓会本部情報 「ひまわり祭」を開催

8月11日、農産物直売所「農の詩」周辺を会場に、「ひまわり祭」が開催されました。昨年は8月20日開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により急遽中止となっていました。

学園正門東側圃場の道路沿いに植えられたひまわりは、ちょうど見頃の時期を迎えていました。



「農の詩」では学園産の新鮮な野菜やメロン、梨、ブドウ等が販売され、周辺のテント内では、焼きそば、ポップコーン、豚や牛の串焼きの出来たてがアツアツで販売され、多くのお客さんが並んで購入されていました。



同窓生の訃報

堀端俊造 (3 期生) (令和4年3月15日逝去)
鞍田三穂 (13 期生) (令和4年1月12日逝去)
武久正篤 (28 期生) (令和5年5月28日逝去)
慎んでお悔やみを申し上げます

編集後記

今年の7月に「鯉淵ひょうごの集い」を4年ぶりに神鍋高原で開催いたしました。皆さん、とても元気そうだったので、安心しました。今回の支部だよりは、読者の年齢にあわせて、文字を大きくし、イラスト、写真を多めに入れました。少しは見やすくなったのではと思いますがいかがでしょうか。

令和5年9月1日

発行編集責任者

同窓会兵庫県支部会長

福井寛行 (26 期生)